



まちライブラリーに関する情報はこちらから
<https://machi-library.org/>

まちライブラリー通信 vol. 28 / 夏号
 発行：一般社団法人まちライブラリー
 住所：〒540-0037 大阪府大阪市中央区内野町 2-1-2 アイエスビル 3 階



まちライブラリー通信 VOL. 28

夏

まちライブラリー総数
 1026
 2023年5月31日現在

生活の記憶の「記録」に挑戦 あなたの日常は未来の宝

皆様、お変わりございませんか？

まちライブラリーは2023年5月末時点で累計登録数が1026カ所になりました。4桁の大台に乗ってからも増え続けている中で、新たな取り組みを三つご紹介したいと思います。

一つ目は、北海道千歳市にある「まちライブラリー@ちとせ」での試みです。千歳では、2月から「書くまちライブラリー」に挑戦しています。元新聞記者の方の指導のもと、まちライブラリーの利用者が、「ピンチ」「すし」「エコ生活」など毎月決められたお題に合わせたエッセイを書いています。参加者同士で論評し合い、文章を整えて地元のフリーペーパー「ちゃんと」（7万部発行）に掲載しています。

利用者の方の日常で起きた出来事や、今年で87歳になられる方の戦争中の体験など、あれこれ書き留めていただいています。文章力を向上させる目的もありますが、隠れた狙いは、皆さんの原稿をまとめて千歳に生きる人たちの生活史として残しておくことです。

この試みのきっかけは、2020年のまちライブラリーブックフェスタ・ジャパンのオープニングイベントで、立命館大学教授（当時）の岸政彦さんが「生活史」をテーマに講演されたことでした。そのお話に刺激を受けて、「読むライブラリー」だけではなく「書くライブラリー」もあるのではという問題提起で始めました。

二つ目は、6月末に東京都西東京市に開館する「まちライブラリー@MUFU PARK」でのチャレンジです。高さ3m以上ある本棚を利用し、上部に「まちライブラリータイムカプセル」構想を展開します。本に見立てた専用の箱を用意し、その中に「子どもの成長記録」「コンサートや映画チケットの半券」「未来への手紙」など、その人にとっての「宝物」を1年単位で配架します。時が来たら、利用者の皆さんで「宝物」をお披露する会を実施するなど、現代社会に生きる人たちの目線から集まる記録を残そうとしています。

三つ目は、6月から東京都奥多摩町で始める「まちライブラリー@本のふるさと奥多摩」での取り組みです。廃校になった小学校の教室に約40棹の本棚を用意し、自宅や研究室、職場に眠る本や資料を配架してもらった活動です。緑の山に囲まれ、湖畔にたたずむ木造校舎を、大切にしたい蔵書の住処にしようと考えました。すでにドイツ文学の教授だったお父様の本を3500冊程度配架している人もおられ、仲間が増えていけばと願っています。東京は本の生産現場であり、流通の拠点です。その東京の最西端にある奥多摩に、行き場を失いつつある本の住処を作って、町を本の桃源郷にしていきたいと考えています。

これら三つの活動は、それぞれ異なる方法論ですが、共通しているのは生活者の身近なところに未来に残すべき大切な宝物があるということです。今の私たちの生活に、未来に残されるべき宝があふれているのではないのでしょうか？そのためには、「記憶」を「記録」にしなければなりません。谷島貫太氏は、『幾何学の起源』の著者で哲学者のエドムント・フッサールとその著書をフランス語訳にした哲学者ジャック・デリダのテキストから「何かが完全に忘れられてしまうことは、その何かが存在しないこと同然になるという危険」を指摘しています。また記憶の「忘却曲線」の研究で知られる心理学者ヘルマン・エビングハウスは人の記憶について「20分後には42%、1時間後には56%、1日後には74%、1週間後には77%を忘却する。1ヵ月後には79%を忘却し、21%が記憶の中に存在している」と提唱しました。それゆえ「書く」「物を残す」という行為、つまり「記憶を記録にする」ことが大切であると言えます。

まちライブラリーは「本を通じて人とつながる」というテーマのもと歩んできましたが、今年は「まちライブラリーを通じて生活の記録を残す」も加わります。従来、記録を残すことは、特別な立場な人や公的な機関がすることだと考えられがちですが、私は市井に生きる人たちが積み上げた記憶に基づく記録こそが未来にとって大切な情報になると思っています。全国のまちライブラリーを運営する人も利用する人も、一緒にどうですか？皆さんの「宝物」を未来に残す社会的なインフラづくりができるのではと夢が膨らみます。

2023年6月

まちライブラリー提唱者 磯井純充



@MUFU PARKで始めるタイムカプセル本箱



@本のふるさと奥多摩の館内の様子

参考図書

『記録と記憶のメディア論』 谷島貫太・松本健太郎編
 （ナカニシヤ出版）2017

◇ ご紹介したライブラリーの情報は下記をご覧ください。



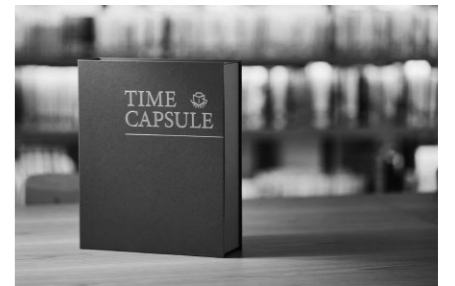
まちライブラリー@ちとせ
<https://machi-library.org/where/detail/2437/>



まちライブラリー@MUFU PARK
<https://machi-library.org/what/detail/8122/>



まちライブラリー@本のふるさと奥多摩
<https://machi-library.org/where/detail/8094/>



武蔵野の自然と本に囲まれた市民広場 まちライブラリー@MUFU PARK 誕生！

東京都西東京市に6月26日、まちライブラリー@MUFU PARKがオープンしました。「MUFU PARK」は、三菱UFJ銀行の福利厚生施設だった場所を一般開放して誕生する総面積約6ヘクタールの公園です。敷地内には天然芝のグラウンドやバーベキュー施設、武蔵野の自然を残した樹木林などがあり、市民の交流の場となることを目指しています。地域の方々にとって身近で心地良い場所となるよう、ライブラリーは空間設計から本の配架まで、様々な工夫を凝らしています。

（文・まちライブラリー@MUFU PARKスタッフ藤井由紀代）

四季を感じる借景 屋外での読書もおすすめ

ライブラリーは広大な芝生広場の一角にあり、「ここは東京？」と思う自然豊かな眺望が楽しめます。建物の壁面は全面ガラス、大きな軒を設けたテラスは広場につながり、開放的な空間となっています。四季を感じる借景が素晴らしく、天気の良い日は屋外で読書を楽しむのもおすすめです。イベントの企画も広がります。利用者の方にはライブラリーと広場を歩き来しながら、思い思いの時間を過ごしていただきたいです。

壁面本棚は全長35m 地層に見立てた本の配架に注目！

壁面本棚の大きさは全長35m余りに及びます。本を配架するにあたっては、人類の誕生から文明の歴史を重ねていくイメージで、本棚の下段から順に自然科学・歴史/哲学・社会・文学・・・などに分類しました。その名も「生活の地層本棚」です。人の営みの軌跡をたどるといふ視点で本棚を眺めるのも面白いかもしれません。

本型の「タイムカプセル」 思い出を本棚に

まちライブラリー初の試みとして「タイムカプセル本箱」を始めます。学校の地面などに埋めるタイムカプセルのように、本型のタイムカプセルに思い出を詰めて、本棚に所蔵してもらおうという取り組みです。写真や手紙、子どもの成長記録、仲間との思い出……など「生活（いとなみ）の記憶」を本型のタイムカプセルに入れて保管します。まちライブラリーの本棚にディスプレイした後、ご自身が設定した期間が過ぎたら開封する仕組みです。何を入れるかは自由！未来の自分や大切な誰かに、時を超えて想いを届けてみませんか？

いつでも、誰でも気ままにふらりと。まちライブラリー@MUFU PARKは思いがけない本や人との出会いを楽しみながら、心地良く過ごせるスペースになっています。少しずつ暮らしに浸透し、地域の方々の居場所になることを願い、日々みなさんをお迎えしたいと思います。まちライブラリーにとっても新たな可能性を感じるまちライブラリー@MUFU PARK。スタッフ一同、みなさんとの出会いを心待ちにしております。是非、お立ち寄りください。

まちライブラリー あれこれ記

復活から1年半、まちライブラリー@ちとせ 十人十色の利用法

(文・まちライブラリー@ちとせスタッフ稲田奈緒美)

今回は、北海道千歳市にある「まちライブラリー@ちとせ」について、あれこれお伝えいたします。このライブラリーは「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」の閉館後、存続を望む市民の方々の声に後押しされて、2022年1月に復活しました。毎日多くの方が、読書や勉強、仕事やイベント参加などを目的に来館しています。この場所を育ててくださるサポーターさんにお話を伺いました。

76歳の常連さん 自分なりの心地良さを求めて (久田さん)



スタッフ(左)との会話は来館の楽しみの一つだそうです▶

週に数日、読書やコーヒーを楽しみながらゆったりとした時間を過ごしている方です。健康のために徒歩で来館し、外を行き交う人を眺めるのも楽しみの一つとか。お話を伺うと、「利用者が若い人ばかりだったら入りにくいと思っていた」と打ち明けてくださいました。ただ、足を運ぶたびに、自分と同じくらいの年齢の方が多く、落ち着いた時間帯が分かってきたそうです。

学生の利用が増える時間帯は来館を控えるなどして、ご自身が居心地良く利用できる工夫をしているそうです。「スタッフの顔を見たり、ちょっとおしゃべりしたり。こういう場所が近くにあるのは嬉しいですね」とにっこり。来館する子どもたちを優しく見守りながら、お気に入りのソファ席でページをめくります。

長年のサポーター 人との出会いが魅力の一つ (瀬川さん)



「1日館長」の第一号として、館内業務をお手伝いいただきました▶

2016年にまちライブラリー@千歳タウンプラザが誕生した当初からサポーターをしてくださっている方で、現在はオリジナル情報紙「ちとせの幸せ図鑑」の制作にも協力いただいています。「取材をするのは緊張しますね。でも、元々デザインには興味があったので、文字やイラストを描くのは楽しいです」とやりがいを感じているそうです。

昨年は「1日館長」にも就任。本を紹介するPOPの作成やカウンター業務にも挑戦し、「いつもは外から見ていたカウンターの中に入るの不思議な感じがしました」と話し、貴重な経験になった様子です。この場所の魅力は、勉強や仕事、おしゃべりなど様々なことができることに加えて、人との出会いが生まれることだと教えてくださいました。

きっかけはスタッフとの雑談 外国語イベントを初企画! (川田さん)



川田さん(手前左)主催のイベントでは様々な言語が飛び交います▶

海外在住の経験があり、3ヶ国語を話す方で、まちライブラリーにはリモートワークなどで来られていました。スタッフとの何気ない会話をきっかけに、外国語での交流を目的とした「LLC」(Language Learners Cafe)を企画。5月に初のイベントを行いました。「色々な国の人と交流できる場が無かったので自分で始めたところ、貴重な出会いがありました」と振り返り、充実した時間になったようです。

付箋でやりとりできる「伝言板」で海外の方向けに発信をしたり、サポーター会議にも積極的に参加したりしてくださっています。「この場所はおしゃべりができるし、飲食も自由で居心地が良いですね。やりたいことはたくさんあるので、一つずつ実現させていきたいです」と意気込んでいます。

イベントに飛び入り参加 大学生が堂々プレゼン (猪俣さん)



参加者を前に発表した際の猪俣さん(右奥)▶

自身が学んでいることや仕事の専門分野についてプレゼンするイベント「さぼnavi」をおこなっていたところ、「見ていたら自分も参加したくなった!」と飛び入りで参加した大学生の方です。「プレゼンをする機会が多く、プレゼンが好きです」と話す通り、堂々とした発表を披露されました。お話を伺うと、バスの時刻表アプリ開発をしたり、全国の仲間と勉強会を開いたり、様々なことに挑戦されていて、これからも私たちを驚かせてくれるでしょう。

普段の利用の際は静かに読書することも多く、落ち着く場所だと感じているそうです。「館内の雰囲気もスタッフも、温かいムードだなと感じています。この場所がずっと続いてほしいです」とまちライブラリーへの思いを話してくださいました。

New! まちライブラリーの紹介

NO. 963 (滋賀県 草津市)

若竹福祉総合学院

障がい者のための学校の1階にあるカフェレストラン「in the Knot」と2階の「学院ホール」でまちライブラリーを始めました。どちらも地域の方にも開放しているので、どなたでも気軽にお立ち寄りください。

- Instagram: cafe_intheknot
- オーナー: 社会福祉法人若竹会

NO. 994 (岐阜県 大垣市)

小さな図書室 たかや

靴職人が長く使っていた昭和の店内に、長く読み継がれている絵本や児童書を揃えています。お散歩の途中、駅前の小さな図書室に立ち寄って、本を開いてひとやすみしませんか?

- Instagram: toshoshitsu_takaya
- オーナー: 大橋朋子

NO. 996 (大阪府 大阪市淀川区)

みんなの図書館さいくる

十三駅から徒歩7分。大阪市立十三中学校の正門前にある空き家を改装したまちの図書館です。一箱本棚オーナー制度を導入していて、個性豊かなオーナーの皆さんが選んだ本や寄贈された本が並んでいます。

- Facebook: みんなの図書館さいくる
- オーナー: 一般社団法人さいくる

NO. 997 (大阪府 東大阪市)

Crossing Book

読書好きだった父は、マンガから児童書小説まで色々なジャンルの本を残してくれました。本たちと一緒に新しい出会いを求めて、まちライブラリーを始めました。

- Instagram: you_kei1923
- オーナー: 陽子 恵子

NO. 999 (富山県 高岡市)

まちライブラリー@矢田文庫

山すその静かな住宅地にある個人宅の庭先に小さな本棚を置いています。ご近所さん、お散歩の途中に寄ってかれませんか?

- オーナー: 柴田幸枝

NO. 1002 (京都府 京都市左京区)

焙煎処 桃栗 豆×本 みんな図書 momokuri

京都の一乗寺で、珈琲豆の焙煎処と一箱本棚オーナーの「みんなの図書館」を併設しています。焙煎を待つ間に、コーヒーを飲みながら本を読んだり借りたりできます。個性的なオーナーさんたちの本をご覧ください。

- Facebook: 焙煎処 桃栗 豆×本 みんな図書 momokuri
- オーナー: 千野知恵

NO. 1004 (奈良県 奈良市)

わくわくポーちゃん

障がいのある人の支援施設「たんぼの家」が運営するコミュニティカフェのテラスにある箱型図書館です。カフェを利用しなくても利用できます。毎月第2土曜午前10時から絵本の読み聞かせ会を開催予定です。

- Facebook: 六条山カフェ
- オーナー: 六条山カフェ

NO. 1005 (奈良県 奈良市)

まちライブラリーEclat

「お子様とお母様が笑顔になり、輝きを増すような場所を作りたい」と思い、フランス語で「輝き」を意味する「Eclat」を名前に付けました。サロン型の私設絵本図書館です。近くには菖蒲池や遊歩道があるので、お散歩もどうぞ。

- Instagram: salon_eclat_ehon
- オーナー: いわしろまり恵

NO. 1006 (富山県 富山市)

まちなかライブラリー@Honda Cars 富山赤江店

カーディーラーに併設しているライブラリーです。書籍はジャンルを問わず約1000冊あります。読書だけでなく、学習や憩いの場としてもご利用いただけます。専用の入口と駐車場・駐輪場がありますので、お気軽にどうぞ。

- Web: <https://www.hondacars-toyama.co.jp/>
- オーナー: 株式会社ホンダ自販タナカ

NO. 1007 (大阪府 大阪市生野区)

いくPAの図書室ふくろうの森

誰もが「ほっと」することができ、「そのままていい」場所を目指しています。子育て支援や子どもの学習サポートも行い、地域の方に関わってもらう機会を作りながら、みんなで図書室を作っていきたいと思っています。

- Facebook: いくのパークの図書室 ふくろうの森
- オーナー: NPO法人IKUNO・多文化ふらっと

NO. 1008 (茨城県 ひたちなか市)

イバフォルニア文庫

太平洋を見渡せるコワーキングスペース内にある小さな本棚です。地域を盛り上げるための「イバフォルニア・プロジェクト」のメンバーや地元の経営者の方たちの本が集まり、本をフックに交流が生まれる場になっています。

- Web: <https://www.ibafornibase.com/>
- オーナー: 一般社団法人アジラボ

NO. 1011 (茨城県 水戸市)

由'sシェアハウス

子どもや大人、旅人、外国人などが訪れるシェアハウスのコミュニティスペースにある本棚です。多様な価値観に触れる機会や交流を楽しみながら、その時々によって変わる本棚を楽しんでもらいたいです。

- Facebook: 由's シェアハウス
- オーナー: 本谷由香

NO. 1012 (神奈川県 藤沢市)

あさひ文庫

月に一度、司法書士事務所がまちの図書室「あさひ文庫」になります。蔵書は老後の暮らしや健康、食をテーマとしたものが中心です。本を通してほっと安心できたり、おしゃべりを楽しんだりする場を目指しています。

- Web: <https://nishizawayumi-shiho.com/>
- オーナー: にしざわゆみ司法書士事務所

NO. 1013 (茨城県)

コラボ屋台

大好きな本を詰めた移動図書館です。行き先は神出鬼没!あなたと本のつながりや出会いにコラボします。

- オーナー: こうた

NO. 1014 (福島県 いわき市)

おゆぶっく古滝屋

歴史ある温泉地である、いわき湯本温泉の温泉旅館古滝屋です。ラウンジの一角にあるまちライブラリーをどなたでも利用できます。温泉が湧き出るように、本を通じた繋がりが“ぶっくぶっく”と生まれますように。

- Instagram: oyubook_furutakiya
- オーナー: 古滝屋里見係まっきー

NO. 1015 (大阪府 大阪市住吉区)

まちライブラリー@マルテントラス

女性の元気のために、薬剤師がいる健康サロンです。女性特有の悩みや食事法、認知症予防などに関するお勧めの本を多数揃え、健康法を伝えたり、健康関連のイベントを開いたりしています。

- Facebook: 薬を使わない薬剤師のこころとからだのセルフケアサロン マルテントラス 大阪市住吉区
- オーナー: 近藤有希子

NO. 1016 (岐阜県 大垣市)

まちライブラリー@おぼろぎよ

ゆったり、のんびり、ぼんやりと。まちの隙間にある、誰でも座れるベンチのような存在でありたいと願っています。大垣駅北口から徒歩4分とアクセスの良い場所にあるので、お気軽にお越しください。

- Instagram: oborotoshokan
- オーナー: まちのすずき 松田

NO. 1017 (大阪府 大阪市中央区)

空堀シネマライブラリーEndMark

映画愛を詰め込んだライブラリーです。映画のパンフレットや劇場の椅子があるほか、大型スクリーンで自主上映会も開催できます。訪れた人が映画をもっと好きになり、映画を観たくなるライブラリーを目指します。

- Twitter: @cinemaEndMark
- オーナー: 夏りょうこ